

令和５年度第１回西区地域包括ケアシステム推進会議

- １ 日時 令和５年８月３０日（水）１４時～
- ２ 場所 西区役所３階 健康センターホール
- ３ 出席委員（敬称略）１９名
田嶋 哲、関 光輝、鈴木 昭彦、坂元 隆行、伊勢野 美代子、榊隅 守人、
森田 義幸、川上 喜久、藤原 通隆、中島 花江、秦 英房、前田 律子、
徳丸 由美子、（代理）宮崎 義隆、和泉 翔大、徳永 航太、窪田 寛史、
伊藤 潤、坂本 あや
＊欠席 津田 美希
- ４ 区長挨拶
- ５ 会長・副会長選出
- ６ 議事
 - （１） 令和４年度熊本市地域包括ケアシステム推進会議について（報告）
 - （２） 西区地域包括ケアシステムアクションプラン中間評価について
 - （３） 西区の地域課題について

議事録等（要旨）

○事務局

議事（１）令和４年度熊本市地域包括ケアシステム推進会議の報告について説明

○委員

消費者安全確保地域協議会は設置されたということか。

○事務局

今年３月２７日に要綱が制定されたので、熊本市地域包括ケアシステム推進会議の中で、改めてこの協議会についても説明があると思う。熊本市地域包括ケアシステム推進会議の委員をこの協議会に充てるといような流れになるだろう。

○事務局

議事（２）西区地域包括ケアシステムアクションプラン中間評価について説明。

○委員

ただいま事務局のほうからアクションプラン中間評価の説明があったが、これに対して委員の方から、何か御意見はないか。

○委員

前福祉課長からは、自治会長に高齢者名簿を渡す場合は、住民から承認を取らないといけなかったと言われた。民生委員も欠員がかなり多いので民生委員とささえりあのみで高齢者の見守りは厳しいと思う。

自治会長は災害要援護者名簿だけは持っているが、支援を希望する住民のみの名簿である。

以前から言っているが、関係機関に自治会が入っているので、自治会長にも高齢者名簿を見ていただいて、自治会長と民生委員とささえりあの連携をやっていないといけないと思う。

○事務局

高齢者名簿の取り扱いについて、民生委員は厚生労働大臣の委嘱を受けており、ささえりあは市の業務委託ということで問題ないが、個人情報保護の取扱いで住民の同意なく自治会にお渡しが出来ない。

個人情報についてはますます取扱いが厳しくなっているため、名簿を利用しない形での協力の進め方というのはどういうやり方があるのか協議していきたい。また、避難者名簿で同意をいただいている方については社会福祉協議会を通じて自治会にお渡しができるため、これをどれだけ広げていけるか考えていく。

○委員

西区での元気クラブやサロン等の活動について、男性の参加者の割合はどのような傾向にあるか。

○委員

西区といってもかなり地域性が違うと思うが、参加者は3対2ぐらいで女性が多いと思う。男性も楽しめるメニューづくりというのは、今後の課題なのかなと思う。

○委員

高齢者の移動手段の確保でデマンドタクシーの他にライドシェアの事業を国が進めている。このライドシェアというのは、二種免許を持たない一般の自家用車で人を運ぶという仕組みであるが、陸運局の話では、この仕組み自体がいかななものかということでまだなかなか進まない状態と聞いている。しかしながら、タクシー運転手がコロナで3割以上の方が辞めている中において、免許証を返納した方の買い物難民をどうしていくのかは課題だと思う。

高齢者の移動の確保については国がある程度、補助金とかいろんな面を出してもらわないと難しいと思う。

○会長

次の議題にも関わるような御意見だったと思う。

○事務局

議事（3）西区の地域課題について説明

○会長

本日は各方面から御出席ですので、この提案以外のことでも問題に感じていることがあれば、御意見を伺いたい。

○委員

運転免許証の返納をしやすい環境づくりが必要だが、地域によってはマイカーがないといろんな行動が出来ないという問題もある。免許証返納者に対する交通費補助や福祉タクシーの補助金はあるのか。

また、デイサービスの送迎を施設の車を使わずに従業員の自家用車で送迎するという事案が以前あったが、現在どうなっているのか。それで交通事故でも起きたら自分の車の保険でカバーしないといけないので、そういう施設に対する指導等があるのかどうか、その2点をお尋ねしたい。

○事務局

1点目の免許を返納された方に対するタクシーや公共機関についての運賃に対する補助はなかったかなと思う。市の地域包括ケアシステム推進会議のほうに、そのような補助制度を求める声があったと進言していければと思っている。

2点目のデイサービスの送迎に自家用車を使っていたことについて、もしその事業所が分かれば、こちらから指導や監査等を行う担当部署につなげていきたいと思う。

○委員

私たちは比較的介護度の重い方々を担当するケースが多いが、介護度が上がってきて認知症が出てきたりしてきても、免許証を返したくないと言われる方が結構多い。

説得するには、御家族様や周りの地域の方々のお声かけというものがすごく重要などころにはなっていると思う。そういった中で何か助成があるならいいと思った。

また、重度の認知症の方の徘徊等が多くあるため、各地域団体の方と連携できるシステムができるとありがたい。

○委員

地域の担い手不足について、各校区の民生委員をはじめ、自治会役員の担い手も不足していることもあわせて検討ができればと思う。

○委員

私たちは、高齢の方々と一緒に作って食べるという共食の活動をして喜ばれている。
今年フレイル予防や認知症予防のため、高齢者の方と一緒に体操やおしゃべり、お茶をしながら研修や講習をしている。

○委員

免許返納することによって、生活が成り立たなくなるので、車がなくなったらどのように移動するのかということまで含めて考えていかないといけないし、その方の生きがいにも影響すると思う。

また先ほどデイサービスの送迎時の自家用車利用について話もあったが、介護や生活を再建するためにお手伝いをする側も実は問題も抱えていて、ご自宅へ訪問するときに、車をとめる場所がない。ただ、やはりリスクっていう面では、やはり自家用車使用というのは危ないことだと感じた。

○委員

私は、高齢者の行方不明事案等の担当をしており、毎日のように認知症高齢者の保護事案を受け、関係機関へ情報提供をしている。

電話でのお金詐欺については、県内では7月末現在73件で、昨年に比べて12件増加しており、被害総額が1億3,500万円ほどになっている。南署管内は現在のところ9件、被害額が1,300万円ほどとなっている。

次に多いのが還付金詐欺で、「役場から還付金がありますよ。」と連絡があり、コンビニ等に誘導されて振り込んでしまう事例が発生している。電話でお金の話があれば詐欺なので、何か相談を受けたり話を聞いた場合は警察のほうにすぐ相談するよう助言をしていただきたい。

○委員

運転免許の返納について、三和圏域のほうでは、御家族や近所の方々が手厚くサポートをしてくださるところがある。独居の世帯は、生協さん等の買物送迎サービスを利用される方も増えてきている。あとはシニアカー等で病院受診に使われている方もいらっしゃる。いろいろと世帯状況は違うが、地域包括ケアシステムを推進していく中で、いろんな一般企業の協力を得ながら進めていく必要があるのかなと思う。

また、民生委員はとても負担が多くなっていると思うので、負担軽減できるところは

ないか考えていただきたいと思う。

○委員

この地域包括ケアシステムは、資料1の通り、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活できるようなまちづくりを目指すという概念で、10年以上経っていると思うが、最近、現場でいろいろ仕事していると、高齢者だけのこの地域包括ケアシステムの概念の考えだけでは解決できないような非常に難しいケースがある。要するに高齢者の介護だけの問題ではなくて、世帯全体の支援をしないといけないようなそういうケースが増えてきている。例えば、無職のお子さんや障がいのあるお子さんとかがいらっしゃったりとか、ヤングケアラーに該当する方がいらっしゃったり、ささえりあや福祉課ではどうしても解決が出来ないような事例が非常に増えている。

この地域包括ケアシステムは、高齢者主体で考えているが、さらにその上には誰でも自分の役割をもって、自分らしく生きれるようなそういう社会を目指そうという地域共生社会という考え方があり、それを意識した活動が必要。

ささえりあや福祉課だけではなく、保健こども課や障がい者相談支援センターなどと連携し、体制を強化していかないと、地域共生社会の実現は難しいと思っている。

○委員

先程お話があった免許返納に対する特典について、県のホームページで調べてみたら、民間事業者が独自にされていることが載っていた。その他、特に郡部の市町村でもそれぞれ独自にしているようで、特に公共交通機関が乏しいところが比較的そういった特典を導入している印象を受けた。

今回の地域課題については、私たちの協議体でも挙がってきた課題でもあったので、今後も関係機関と考えていく必要がある。

○委員

免許返納に関して、河内芳野校区はエリアが広いので、大きな問題となっている。免許返納して、タクシーを使う頻度が増えると費用がかかる。河内校区はローソンさんと移動販売を立ち上げているが、なかなか現状としては難しい問題がある。

免許返納は、軽度の事故をきっかけに返納されるパターンが多いと感じているが、今後も進めていくべき。しかし、先ほど御意見もありましたけど、それに対する補填がないとなかなか難しいと思う。また、免許返納された後に、精神的な落ち込みでADLが落ちてしまう高齢者の方もいらっしゃるので、精神的なケアも含めて考えていけたらと思う。

また、地域の高齢者の方が急変された際に、民生委員の方が私たちはどこまですればいいのか、どこまでが私たちの役割なのという問題提起をしていただいたことがきっかけ

けで、現在、1度に3、4名の民生委員さんに来ていただいて、定期の連絡会を開催している。今後お互いに顔の見える関係をつくって、支援していく体制が必要である。

○委員

熊本港に通じる2車線道路が広すぎて、毎年逆走が発生しているので、交通課題を感じているところだったが、今年の10月、小島と中島校区でAIデマンドタクシーの試運転があるとのことなので、住民も大変期待している。

○委員

向こう三軒両隣という言葉があるように、昔は地域で分かる人が多かったが、現在は近所付き合いがない。地域で見守りができるようになるのが理想である。

○委員

免許返納の件で、他都市ではエリア限定の免許証を出すような自治体もあるようなので、県で取組が出来ないかと思った。

課題のところで、民生委員のことを書いてあるが、民生委員の制度はもう106年目となる。古い制度と言われるが、地域をつなぎ、地域力を高めるということで、最先端の組織だと思う。

ヤングケアラーについては、本人たちがなかなか自覚していないというのが大きな問題。学校の先生方が、この子はちょっと洗濯が行き届いてないとか、何かちょっとしたところに気づいていただくのが大切だと思う。

春日校区では、小学1年生と一緒に、お話ししながら下校の同行をする活動があり、80歳代の方で参加された方からは、子供たちから元気をもらおうという感想をいただいた。世代間交流については、縦割りではなくて、いろいろ絡めて活動することが大切だなと思った。

○委員

私は自治会長をしているが、民生委員の業務が非常に多いと感じる。民生委員と自治会長の仕事で内容が重なる部分はあるのではないかな。当町内、校区では、民生委員と自治会長のそもそもの接点が少ないというのが実情なので、今後改めていく必要があるし、双方協力し合って、高齢者のサポートを安全な形でできればいいと思う。

自治会長や民生委員の方々、あるいは校区あるいは町内の各種団体で、重なる活動をしているので、例えば、3ヶ月に1回程度の会議を行うよう要請等はできないのか。その中で、改善していく形もあるのではないかなと思った。

○委員

先程から地域での見守りをどうするかという話があっているが、民生委員さんをはじめ、地域を担っている方々の負担が大きい。どうしても、民生委員さんとか、自治会役員だけでは、高齢者の方々がどういう状況なのかというのは把握出来ないところがあるので、私の町内では、隣保を一つの単位として、主に女性の方から、高齢者の方に声掛けを中心に行っている。特に、災害時の対応については、民生委員、自治会だけでは対応出来ないで、町内毎に話し合いを進めていくことにしている。

○委員

うちの校区も他の校区と同じで、災害時避難というのが一番のネックで、すぐ横に白川と、坪井川があり、ハザードマップ上では水位3メートルの表示となっている。よって、小学校の体育館は、水害時の避難所には向かないとなっているが、今年7月の大雨時においては、危機管理課から西区の防災担当に避難所として体育館を開けるという指示があり、ちょっとおかしいなと思うことがあった。

また、うちの校区では、社会福祉協議会、民児協、こども会など様々な各種団体があるが、まとまってない。それもあって、自治協議会には絶対必要な社会福祉協議会自体が、自治協議会を脱退しており、非常にやりにくいというのが現状である。

個人情報の点については、自治会にも名簿があるが、高齢者御自分で支援の登録をされていない。詳しい情報は民生委員児童委員が持っているが、個人情報なので、自治会には渡せない情報となっている。区の説明もあったが、個人情報保護が出来てからこういう問題が非常にネックとなっているので、自治会長にもそういう名簿が渡るような改良された案が出れば非常にありがたいと思う。

○委員

免許返納について、返納しても不便にならないことがまず一番だと思う。ところが、毎年、バスの本数がどんどん減っている。私は島崎に住んでいるが、1時間に1本もない時間帯もある現状では免許返納は無理があり、補助金の話もあったが、全体的に検討して欲しい。

民生委員さんの話については、町内自治会の役員と民生委員さんとの協議をする話になったときに、個人情報保護があるため、民生委員さんが自治会の役員にどこまで相談していいか分からず、結局全部自分で被ってしまう。今後、内容を整理して、民生委員さんとの協議の場を設けたい。

○委員

私の校区も高齢者が多く、認知症の方もいらっしゃって、地域で見守りをするような状態である。認知症がある方が隣保組の方だけでも分かればと思う。

○委員

歯や口の機能が衰えた状態をオーラルフレイルと言うが、その予防対策をどのように行っていくかというところになってくる。オーラルフレイル対策として、後期高齢者歯科健診があるが、受診率が1%となっている。ほとんどの方が参加されていないという状況なので、これをいかに普及させていくかというところ。

8月25日の第1回健康くまもと21促進会議の資料によると、東区の健軍商店街で昨年の11月に「健軍 食と健康まつり」というものが行われており、その中で、歯科健診や相談のコーナーを設けたところ、乳幼児が35名、児童が43名、成人が80名、高齢者が94名の参加があった。圧倒的にその割合として、高齢者の方が参加していただいているので、西区のほうでもイベント等があれば、そういうところに参加出来ていくと活動も行える。

○会長

免許返納の問題は、皆さん言われた通り、代替の交通手段がないと解決しないと思う。西区は広い範囲で公共交通機関が少ない地区が多いため、その辺を考えての対策が必要である。

また、医療側の私の立場として、特定健診の受診率を上げるために、勧奨をしっかりとやっていかないといけないかなと考えている。行政の方でも広報の仕方をしっかりと考えていかないといけない。

たくさん御意見いただきましたけども、これを取りまとめて西区の地域課題とする。

○事務局

第1層の市の推進会議に第2層のこの西区推進会議からお1人選出することになっております。ついては、西区の代表として、田島会長にお願いしたいと思いますよろしくお願いします。

○委員全員

拍手

○会長

了承

閉会